とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都新宿区水道町 1-28 江戸川小学校内
園名	新宿区保育ルームえどがわ園

1．活動のテーマ

<テーマ>

Ocean（海）

<テーマの設定理由>

自園の絵本コーナーでは生物に関する図鑑を多く取り入れており、子ども自身が好きな時に図鑑を読み、興味を持った生物を調べることができる環境を整えている。そのため子どもたちは生物への関心と生き物への関心が高く、図鑑を見ながら海の生き物に対して保育者に質問が多くあがっていたが、海の生き物が魚やサメなど知識の偏りが大きかったので、様々な種類の生物が生活しているという関心を持ち、探求を深めたいため。

2．活動スケジュール

6月～1月まで行い、月に１回英語講師をより、専門的な意見を聞きながらOcean（海）に触れる機会を創出することで、深く探究活動ができるようにしました。
その時点での子どもたちの興味関心をもとに問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにしました。
6 月～8 月：海の生き物の塗り絵をし、どのような生き物が存在するのか探究した
9 月～10 月：様々な特徴を持つ生き物を分類し、分類した魚を知る探究をした
11 月～1 月：魚の特徴を知る、水族館へ行き、自分の水族館を作る

3．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・小学館の図鑑 Neo 魚：魚について調べるために使用　(2025 年 12 月 19 日、2026 年 1 月 9 日に使用)
・すいぞくかんのみんなの 1 日：魚について調べるために使用　(2026 年 1 月 9 日に使用)
・うみのいきものずかん：魚について調べるために使用　(2025 年 8 月 8 日、11 月 28 日、12 月 19 日、2026 年 1 月 9 日に使用)
・海のスタンプ：スタンプラリーで使用　(2026 年 1 月 12 日に使用)
・色鉛筆：塗り絵をするために使用　(2026 年 10 月 14 日に使用)
・スパンコール：水族館作りのために使用　　(2026 年 2 月 13 日に使用)
・ラメ入りモール：水族館作りのために使用　　(2026 年 2 月 13 日に使用)

４．探究活動の実践

【3・4 歳児実施分】

問いを考える：「海の中にはどんな魚がいるのかな」「海の生き物の動き方はどんなかな」など、子どもの疑問を聞き取る。

海の生き物を知っているかな？と海の生き物に関する問いかけをし、海の生き物図鑑を使用して海の生き物を調べました。

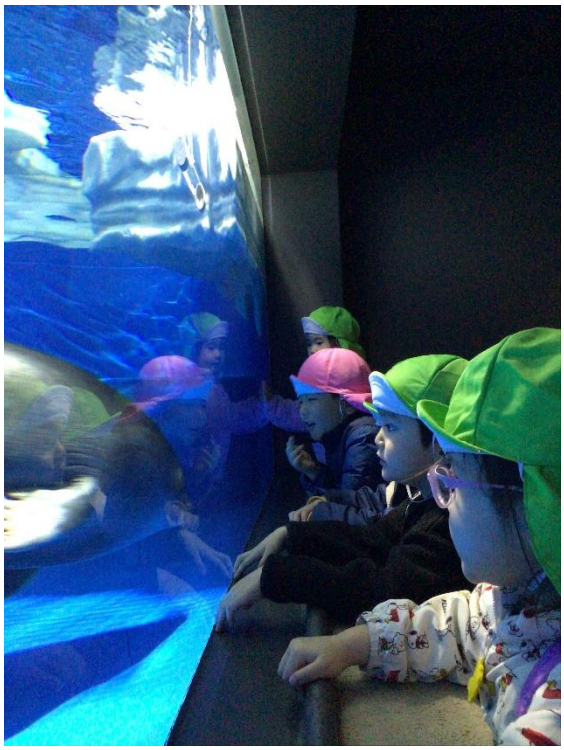
また、海の生き物についての探求を深め、どのような種類で分けられているのかな？どのような特徴をもっているのかな？と問いを重ね、英語を用いてスタンプラリーをしたり、小グループに分かれてペットボトルで水族館を作ったりし、子どもの興味に合わせた問いかけをしました。

探究活動の様子：まずは、フラッシュカードを用いて、英語で魚の名前を知ることから始めました。
魚について深く知っていくことで、子どもたちと保育室を海にする大改造をし、保育室にいる魚（子どもが塗った魚の塗り絵を壁面にしたもの）とフラッシュカードを照らし合わせ、これは英語でなんて言うのかな？と活動を重ねる毎に子どもたちの興味関心が高まっていきました。
さらに、海の生き物を調べていく中で、「怖い魚もいるんだね」という子どもの気付きから少しずつ「サメ」に興味を持ち始めました。サメの中でも様々な種類のサメがいることを知り、興味のあるサメの名前や特徴を保育者に尋ね、知識を身につける姿が見られました。子どもたちは、サメの中でも「ホホジロザメ」というサメに興味を持ち、夏祭り会では、「ホホジロザメ」のお神輿を作る活動をしました。
はじめに、グループに分かれて、新聞紙とボンドを使用してサメの土台作りを行いました。グループ活動の中では、どこから固めていくか、どのようにサメのしっぽを作るのかのアイデアを出し合い、友だちと会話を楽しみながら、子どもがイメージしたサメ作りに取り組んでいました。
そして、サメ以外にも様々な魚を図鑑で繰り返し見ていくことで、子どもから水族館に行ってみようという提案がありました。水族館では、図鑑でたくさん見てきた魚を実際に見ることができ、「この魚図鑑にいたね」「この魚英語でなんて言うのかな？」と英語講師に尋ね、英語で発音してみようとするなど、英語講師と一緒に英単語を繰り返す場面も見られました。
水族館から戻ると、自分たちで水族館を作ってみたいとの提案があり、ペットボトルや洗濯糊、貝殻、セロファンを使用して、グループに分かれて水族館作りをしました。完成したペットボトル水族館は、グループごとにどのように作ったのか、どのような魚を取り入れたのかを発表しました。

ふりかえり(保育士の気付き)：初めは、子どもにとって魚は１つの生き物としてくくられていました。しかし、毎日図鑑を見ていくことで、骨のない魚や、哺乳類の魚、泳がない海の生き物など様々な種類に分類されているという知識を得たことから探究がさらに深まりました。得た知識を友だちに話したり、「これはどんな魚？」と保育者に尋ねたりする姿がありました。そこから徐々に興味関心を高めていき、どのように分類しているのか理解できるようになると、子ども自身で壁面として飾っていた魚を分類し始める姿が見られるようになりました。その様子から子どもが興味関心をもった魚の塗り絵をしたり、絵を描いたりする活動を取り入れ、子どもがさらに探究したい気持ちを促したり、知識を得られたという嬉しさを味わえるような保育環境を作るようにしました。
水族館に行くことで、図鑑で見ていた魚を間近で見ることができ、子ども同士で「こっちにもいるよ！」「ニモいるよ！」などと話をして盛り上がっていました。図鑑の中だけでは得られない、魚の動きの特徴などを見ることができ、毎日の探求から活動から水族館で実際の魚の知識を照らし合わせながら、海の生き物を観察していたため、一時的ではなく継続的に興味を持てるようにしていきたい。
また、子どもの「なぜ」という質問に対しても大人が直接その場で答えるのではなく、探求が深められるようタブレット端末や図鑑、絵本を環境に配置することで、子どもの「もっと知りたい」という思いに繋がりました。魚だけでなく、イソギンチャクやヒトデの生体にもより興味を持つ子どももいました。それらから、子どもが、自分の得た知識を保護者や保育士に伝えたい、教えたいという気持ちが芽生えていたため、今後の展望として発表する機会を設けることも行っていきたい。

５．活動の様子が分かる写真

３・４歳児



とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都新宿区水道町 1-28 江戸川小学校内
園名	新宿区保育ルームえどがわ園

１．活動のテーマ

<テーマ>

ものを持ち上げる力・ものの重さの不思議

<テーマの設定理由>

自園では子どもの自立を支援する中で、身支度を子ども自身で行い、荷物の整理整頓を行える環境を整えている。その生活の中で、リュックでの登降園を通して自分の持ち物の管理ができるようになり、持ち帰るものが多い時と少ない時の重さの違いに気付けることが多くなったため。
また、荷物が重い際には「重いから持てない」と保育者や保護者に任せる子どもも多いため、持ち方を工夫することによって自分で荷物の管理ができ、重みの違いを探求を深めるため。

２．活動スケジュール

６ 月から１月まで行い、月に１回体操講師より、専門的な意見を聞きながら、共に探究をしていきその内容を普段の保育でも探究活動に生かせるようにしていきました。その内容を子どもの興味関心をもとに保育者同士で話し合い翌月の探究内容について考えていけるようにしました。
６月～９月：物の重さを知る、重い物を運ぶにはどうやって持つかについて探究をする
１０月～１月：重い物を持つにはどこの力をどうやって鍛えるかについて探究をする

3．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・どうぶつたいじゅうそくてい(絵本)･･･重さについて理解を深めるために使用(2026 年 1 月 30 日に使用) ・デジタルスケール…物の重さを調べるために使用　(2025 年 9 月 9 、11 日に使用) ・きっずほわいとぼーど…物の重さの記録を記入するために使用　(2025 年 9 月 11 日に使用)

４．探究活動の実践

【3・4 歳児実施分】

問いを考える：登園時のリュック、降園時のリュックに何が入っているか、登園と降園のどちらのリュックが重いかという問いを調べました。また、リュックと同じ重さの玩具を調べ、重さについての理解を深めていきました。探究のまとめとして、重い物を持つには、どこの力をつけるかについて問いを重ね普段の遊びの中での鍛え方について問いかけをしていきました。

探究活動の様子：１週間リュックの中の荷物(水筒、コップ、着替え等)を出し、中身を確認したうえで重さを量り、どの曜日の荷物が重いかを調べていきました。同じ水筒でも朝と夕方の重さが違うことに気がつくとなぜ重さが違うのか、中身がないから軽いのかと意見を出し合っていました。量った結果をもとにグラフを作り掲示すると、どの曜日が重いのか？誰が重いのか？について興味関心を持ち、グラフを見ながら思ったことを友だちや保護者と話していました。リュックの重さと同じ重さになる玩具を探すと、普段遊んでいるものが同じ重さになることに驚いている様子が見られました。

重さを調べている中でどこの力が必要かについて考えていくと、「脚の力」「お腹の力」が必要との意見が出たため、チームに分かれどのように鍛えるかについて考えていきました。いざ考えていくと、どうすればいいのか戸惑う姿が見られましたが、保育者や体操講師がアイデアを出すと、子ども自ら意見をだすことができていました。足を鍛えるには、「二人三脚」という案がでると早速、紐で足を結び声を掛け合いながら試してみました。また、お腹を鍛えるには、「蛙跳び」という案が出たため実践すると、脚の力も使うと発見していました。実際に体を動かすことにより、疲れる場所が分かりやすく疲れた箇所を周りに伝えることや楽しみながら行うことができました。戸外活動の際に、すくわくで学んでことを進んで実践する姿も見られました。

ふりかえり(保育士の気付き)：どちらのリュックが重いのかという問いかけに対して、数値で見れたことで分かりやすくすることができました。数値で見れることにより、子どもの数字への興味、関心も伸ばせることができました。また、重さの感じ方が個々により違うので保育者が思った結果と違う結果になってしてしまい難しさを感じました。
保育者が活動の流れを作っていく反面、子どもの興味関心を壊さずに結果を出していくことに主導的にしないことに気をつけていきました。
鍛え方を考えていく中で進んで意見をだせる児となかなか意見が言えない児がでてしまったため、保育者と一緒に考え発表することで、子どもの自信にも繋げることができたと思います。
すくわくを通して、日々の保育の中で重い物を 1 人で進んで持ったりしている姿が垣間見れたので力がついたことを実感することができました。

５．活動の様子が分かる写真

３・４歳児